

ぼくに、やらして！

山本 敦子（大阪市立東小橋小）

1 はじめに

ホールディングバレーの実践報告を聞いた
り、実技をしたりして、いつかやってみたい
という思いがどこかにたまっていたのだろう。
運動会がおわって、やっとクラスでの体育が
できるときに、「そうだ！」と、体育館に行っ
て、バトミントンのネットの点検をはじめた。
ちょうどいいボールもあるし、今、やるしか
ない！と、綿密な計画もなく、走り出した。

2 単元

「バレーボール」 3対3

○1人1回ずつパスを回して、3回目で相手
のコートに投げる。

○ボールを受けたら、3秒以内に投げる。

○サーブは、やさしく相手に投げる。

（最初に決めたルールは、これだけ）

3 子どもたち

2年い組18名（男子8名 女子10名）

特別支援学級に1日1時間通っているOさ
ん。フラフトの実践では、1対1や、2対1
までは、なんとか自分から動いて参加できて
いたが、2対2になると、友達に言われるま
まにしているだけだろうなと思えるような動
きが多くなり、Oさんにとって、わかって
できる授業になっていなかったと思える。Oさ
んが、自分から動き出すような授業でなけれ
ばならないと思うが、なかなか、他の教科の

授業でも、できていないことが多い現状だ。

4 実践期間

2019年 10月～11月

5 実践するにあたって

- ① 子どもたちからでてくる動きや気づきか
ら、教えるなかみを考えていく。
- ② 授業の場面や感想文から、それぞれのグル
ープの課題を明確にしていく。
（クラス全体のめあてと、グループ特有の
めあての両方に、目を向けていくこと）

6 目標

- ① チーム内のパスと、相手チームへ投げるア
タックとの、違いがわかり、投げかけるこ
とができる。
- ② 次のプレーのための準備を考えることが
できる。
- ③ みんながたのしくゲームをするためのル
ールを、話し合っつけていくことがで
きる。

7 授業過程（全 15 時間）

次	時	月日	学習活動	めあて
I	1	10/7	感覚作り	・円になってパスを長く続けよう。（教室班）
	2	10/9	チーム 決め	・準備のやり方を覚えよう。 ・3対3のためしのゲームをする。（前1人 後2人）
	3	10/11	練習と	・ローテーションを覚えよう。（前2人 後1人）
	4	10/16	ゲーム	・「ちょび」…ボールをちょんと落とす
	5	10/17		・どうしたら「ちょび」がとれるだろうか？
	6	10/23		・足を動かしながらの守り。 ・アタックが落ちてくるところを予想しよう
	7	10/24	対戦を かえる	・フェイント、くるくるボール、アタックの手首の使い方
II	8	10/28	アタック	・「ぼくに、やらして！」→みんなアタックしたい！
	9	10/30	調査	・ネットに近づいてジャンプして投げる方がアタックが決まる→レシーブしたら、ほかの2人は前にでる。
	10	10/31		・強い人ばかりがアタックした方がいいの？→みんな ・3人はどこで守ったらいいだろうか？→前、中、後
	11	11/6		・アタックの人はネットに近づいてボールをもらう。 ・レシーブは、前、中、後ろ、どこを守るのか相談。
			教室 勝敗の 決め方	・まとめのゲームでの勝敗の決め方を、みんなで相談して決める。 ・兄弟班で気づいたことを言い合って練習しよう。
	12	11/7	兄弟班 で練習 不公平 なこと	・4人班と5人班では、全員回るのに平等ではない。→どんなルールをつくったら公平になるだろうか？
			13 14 15	11/11 11/13 11/20 まとめ のゲー ム

8 結果

①パスとアタックの違い

	チームの中でのパス	相手チームへのアタック
10/11 ①	1班「 <u>O君の取れるボールの高さや、はやさを</u> わかりたい」	1班Jが相手チームへの攻撃に「 <u>ちょび</u> 」を發明。4班、Kは <u>強いアタック</u>
10/16 ②	2班Y「 <u>皆パスが低すぎて落とす</u> ぎてたからこれからもっと取りやすいボールを練習していきたい」	

	チームの中でのパス	相手チームへのアタック
10/17 ③		1班、I「アタックするとき、前にきてたから、 <u>後ろはあいてたから、そこに向かって投げたら、点数が入った</u> 」 O、みんなの様子を見ていて、 <u>ネットに近づいてジャンプして上から投げるようになった。</u>
10/23 ④	1班の N「Oさんとキャッチの練習をしてて、どうしてもボールがきたら目を閉じてたから次からそれを皆で解決したい」 <u>頭より高いと目を閉じる。</u>	3班、遠くへのアタックと、近くへの「ちょび」を投げるときの <u>手首の使い方を R が Y におしえている場面。K「くるくるボール」</u> 発明。 <u>回転させると取りにくい。</u>
10/24 ⑤	4班 M <u>わざと仲間</u> にきついボールをパスする。	3班、K「Mちゃんが <u>線ぎりぎりを狙ってきた</u> りした」
10/28 ⑥		2班、N <u>ネットに近づいて相手のいないところに「ちょび」</u> を多く決めた。 4班、S「 <u>近くへ行ってから、ジャンプ</u> をしたら入った」 2班、A「相手のチームはアタックの練習をしてるんやなって思いました」
10/30 ⑦		1班、N「あいてる所を見て <u>時間がかかって投げてたから、それをなおしたい。</u> 」 4班、F「外にアタックしすぎた」
11/6 ⑨		1班、K「ちょびも、 <u>たまにやったら、よかった</u> 」4班、S「 <u>目を左に向けたら、左に相手</u> が来るから、 <u>右に落と</u> したら点を取れました」
11/11	⑩	4班、M、 <u>弱い N を狙っている。</u>
11/20	⑬	1班、J、 <u>後ろ向きで、投げる。</u>

②次のプレーのための準備

	守りのための準備	攻めのための準備
10/17 ③	2班、Y「 <u>落ちてきそうやな</u> と思っていたら、本当に落ちたから、 <u>ダッシュして取れた</u> 」3班、いつも足を動かして、 <u>どちらにも行けるようにしておく。</u> 4班、H「 <u>相手が、いないところに 2</u> 回投げてきて、そのボールをぎりぎりキャッチできた」	

10/30 ⑦		<u>ネットに近づいてジャンプして投げる方がよく決まる</u> →レシーブしたら <u>他の2人は、前にできるようにしよう</u> 。3班 K「今日、レシーブ以外の人が前にいくのをやって楽しかった。それを考えた班はすごい」
10/31 ⑧	2班、A「 <u>後ろに全員いかんと、後ろ真ん中に守る</u> 。4班と戦う時は、練習の時に <u>強い球の練習をしたい</u> 」	3班、R「 <u>味方が落としたらあかんから、後ろに入って、落としたら取れるようにします</u> 。しかも、 <u>すぐわたせるから</u> らくです。その名前は、 <u>スーパーカバー</u> です。」(トスを貰う人の後ろにアタッカーが走っていく)
11/11 ⑩	1班、I「 <u>Mちゃんと、MOちゃんは、ちよびがうまくて、R君とOちゃんは、強いアタックがうまいから、誰がアタックするのかを見たら、わかる。</u> 」 3班、R「 <u>予想が当たってうれしい</u> 」	
11/13 ⑫	4班、S「 <u>相手のR君がスパイク強いから、自分はサーブやって、R君の方に投げたら、R君がレシーブして、R君がスパイクしませんでした</u> 」	2班、Y「 <u>相手のY君が、左を見ながら右になるやつをばれるから、もっと違う投げ方をやった方がいいと思った</u> 」
11/20 ⑬	1班、N、Fの <u>ちよびを予想</u> できるようになって、 <u>前の方で守っていた</u> 。	3班、I、最初にレシーブに行くように、 <u>R君が狙われているので、それをさせないように、レシーブに行っていた。</u>

③ルールづくり

	きっかけとなった事実	聞き取ったこと、話し合ったこと
10/24 ⑤	4班、M、味方に強いボールを投げて、そこで、 <u>落としてしまうことが多く、私が注意しても、反応なし</u> 。	4班、HがMのことを書いてきたので、聞く。「Mちゃんは、 <u>自分がアタックまわってけえへんから、おこって、強いボール投げててん</u> 」と教えてくれた。
10/28 ⑥	グループ練習の時間に、1班、O「 <u>僕に、やらして</u> 」と大声で言う。訳を聞いてみると、 <u>アタックがやりたい</u> ということだった。	Oの言うようにみんなもアタックしたいの？と聞くと、「 <u>したい!</u> 」と全員。誰がどれくらいアタックをしているのかを調べてみようとして私から提案した。 <u>アタック調査</u> (決まったら赤、打ったけど決まらなかったら青のおはじきを名前の表に置いていく)
10/28 ⑥	4班、S「 <u>Hがレシーブをよくして、アタックをしてないから、最後になるようにしたい</u> 」	

10/30 ⑦	3班、ほとんど、RとKがアタックしている。特にRは、 <u>自分にアタックが回ってくるように声を掛けている。</u> 4班、M「3班のR君とOちゃんが、ほぼほぼスマッシュができていて、Mちゃんが1回もできてないのは、たぶん、 <u>最後に強い人がした方がいいのかな</u> ーって、思ったと思います」	
10/31 ⑧		<u>強い人ばかりが、アタックする方がいいのかな？</u> ⇒ <u>みんなが、アタックしたい。</u>
11/6 勝敗の決め方		3班、K <u>赤のおはじきの数を点数に。</u> 4班、S、1班、K、 <u>チームのみんなが1回ずつアタックが回ったら、1点。</u>
11/7 ⑩	1班 K「昨日決めたルールやったら、 <u>4人の班と5人の班では、不公平やと思う</u> 」	2班、A「 <u>5人班は、5人のうち、4人回ったら、1点入ることにしたらいい</u> 」

9 考察

① 子どもたちからでてくる動きや気づきから、教えるなかみを考えていく。

○…めあてにした

●…めあてにしなかった

チームの中のパス

○相手に取りやすいボールを知る。(取りやすい高さ、速さは、人によって違う)

相手チームへのアタック

○人のいない所やラインぎりぎりを狙う。

○強弱をまぜる。

○ネットに近づいてアタックする。

○手首をつかって投げかける。

○トスを貰ってからアタックするまでの時間を短くする。

●相手の弱点を狙う。

●狙っている所を相手にわからないようにする。

守りのための準備

○いつも動けるような姿勢でいること。

○相手がアタックしてくる場所を予想する。
(目線、誰もいないところ、相手の得意な技)

●おはじきの数で次にアタックする人を予想する。

●強い人にレシーブさせて、アタックさせないようにする。

○コートの前、真ん中、後ろを、3人で分担して守る約束をする。

●相手の得意なアタックを知って、それをとる練習をする。

攻めのための準備

○ネットに近づいてすぐジャンプして

アタックした方がよく決まるから、レシーブした人以外の2人は、ネットに近づくようにする。

●アタックの強い人にレシーブさせるように狙われるので、それをさせないように、違う人がレシーブする。

② 授業の場面や感想文から、それぞれのグループの課題を明確にしていく。

(クラス全体のめあてと、グループ特有のめあての両方に、目を向けていくこと)

最近になって、グループ特有のめあてが、それぞれのグループに存在するはずだと気づいて、この実践では、毎時間、感想文を読んで、私がみつけたそのグループの課題を、グループノートに書いていくことにした。そうすることで、今、そのグループが直面している問題が浮き彫りにされるはずだと思ったからだ。本来は、子ども達にみつけさせるべきなのだろうが、初めての試みなので、自分でまず、やってみたかった。このことで、各グループがたどっていった固有の道を、実践途中にも、少し見えるようになった気がする。今までと考える順序が逆になったのかもしれない。

初めてのバレーボール実践だったが、どの子もアタックがしたいんだと言ってくれてよかったと思っている。その思いと技術とルールをどうつなげていくのかが、これからの課題。

